

「ネムノキの観察 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小学校の校舎内にあるネムノキは、屋外で見かけるネムノキとは、別の種類のような。花の色も形も全くちがうのだ。



花の形状や色の特徴をよく調べてみると、「アカサヤネムノキ」 *Pithecellobium confertum* という園芸品種とわかった。「アカサヤ」は「赤鞆」の意味で、赤い鞆の果実ができることに由来する。それにしても、一般的なマメ科の花---例えばフジの花やニセアカシアの花とは全く似つかない。この花から、豆の鞆ができるとはにわかには信じがたい。



こちらはつぼみで、少し先端が膨らんできている。これもマメ科には見えない。何も説明されなければ、ヤツデの花か実だと思うだろう。どんなふうに咲いて、実ができるのか、観察を続けたい。



ネムノキの仲間は、夕方になると、葉を閉じる「就眠運動」を開始する。これは夏至に近い夕方5時頃の葉の様子だ。やや閉じているのがわかる。



30分後、もうこんなに閉じてきた。一部の葉が閉じるのではなく、また葉の先端部や根元から順に閉じるのでもない。全部の葉が一斉に眠るのが面白い。



更に30分後、完全に閉じた。ネムノキは常緑樹で、今の時期に新しい葉が出る。面白いのは、去年からの古い葉(写真背後の濃い色の葉)は閉じず、今年出た新しい葉(色の薄い葉)だけが閉じていることだ。虫の食害を防ぐ為だろうか?面白い特徴である。